

コリン、英米アカデミー賞男優賞w受賞、おめでとう！！

# 経済倶楽部映画鑑賞会

1月は「演技派男優のこの一作一若手・壮年編」特集

制作関係者	上映予定作品	物語	その他の紹介
<p>1/13(金)</p> <p><b>監督</b> トム・フーパー</p> <p><b>出演者</b> コリン・ファース (アカデミー賞主演男優賞)</p> <p>ヘレナ・ボトム＝カーター ジェフリー・ラッシュ マイケル・ガンボン ガイピアース</p> <p>2010英濠 カラー111分</p>	<p>「英国王のスピーチ」</p>  <p>2011年アカデミー賞 作品賞、監督賞、脚本賞、主演男優賞</p> <p>「The King's Speech」</p>	<p>英国王ジョージ五世の次男アルバートは、幼い頃から吃音症でスピーチが大の苦手。妻のエリザベスはスピーチ矯正専門家ログを見つけ出し、夫に治療を勧める。しかし王位についた兄エドワードから「吃音矯正は王位欲しさか」との言葉を浴びせられ治療を中断してしまう。結局、離婚歴のあるシン普森夫人との結婚を望み、兄は王冠を捨て、弟はジョージ六世として即位を余儀なくされる。時代は風雲急を告げていた。ドイツやイタリアのファシズム、ロシアの共産主義の台頭。欧州は一触即発の状態だった。英国は王家の継続性を保ち、国民の奮起をうながすため、立派な国王を強く必要としていた。</p>	<p>内気なジョージ6世(現英国女王エリザベス2世の父)が、言語療法士の助けを借りて障害を克服し、第2次世界大戦開戦にあたって国民を勇気づける見事なスピーチを披露し人心を得るまでを描く。幼少時の恐怖を抱えたまま大人になり、自己嫌悪の塊でありながら短気な面も持ち合わせた、複雑で繊細なこの人物をコリン・ファースが好演し、2011年の英米両国のアカデミー賞主演男優賞に輝く。王を頼もしく支える王妃エリザベスに、数々の当たり役をもつチャーミングなヘレナ・ボナム＝カーター、信念の言語聴覚士ログに名優ジェフリー・ラッシュ、この最強の布陣で、本作は数々の映画賞を獲得した。</p>
<p>1/20(金)</p> <p><b>監督</b> ガス・ヴァン・サント</p> <p><b>出演者</b> マット・デイモン ベン・アフレック (共にアカデミー脚本賞)</p> <p>ロビン・ウィリアムズ (アカデミー助演男優賞)</p> <p>1998米 カラー127分</p>	<p>「グッド・ウィル・ハンティング」</p>  <p>1997年アカデミー賞 脚本賞、助演男優賞</p> <p>「Good Will Hunting」</p>	<p>天才的な頭脳を持ち、MITの数学教授ランボーの難問をすらすら解くウィルは、学生ではなく、ただの清掃員。彼は自分の生い立ちにトラウマを持ち、決して他人に心を開こうとしない。ウィルの才能を発見したランボーは彼と共同研究を始めるとともに、精神分析医のショーンを紹介する。ショーンもまた、希有な才能を有しながら、妻を亡くしてからは、研究の一線から退いているのだった。ウィルとショーンは次第に心を通わせていくようになるが、彼の才能に気付いた政府機関や大企業が接近してきた…。</p>	<p>ハーバード大学の学生だったデイモンがシナリオ製作の授業のために執筆した40ページの戯曲を親友のアフレックに見せたことから映画化へ向けた二人の共同制作が始まる。完成に2年の歳月をかけたが、彼ら自身が演じることにこだわったためなかなか作品化されなかった。しかし1997年のワールドプレミア後から脚本と映画の完成度の高さに注目が集まり、最終的にはアカデミー賞など多くの映画賞で高い評価を受けるにいたる。それにしても脇にまわった時のロビン・ウィリアムズのうまさといったら…。</p>
<p>1/27(金)</p> <p><b>監督</b> ジェシー・ネルソン</p> <p><b>出演者</b> ショーン・ペン ミシェル・ファイファー ダコタ・ファンニング</p> <p>2002米 カラー133分</p>	<p>「アイムサム」</p>  <p>「I am Sam.」</p>	<p>知的障害のために7歳の知能しか持たない父親サムは、スターバックスで働きながら一人で愛娘ルーシーを育てていた。妻はルーシーを生むとすぐに姿を消してしまっただが、二人は理解ある人々に囲まれ、幸せに暮らしている。しかし、ルーシーが7歳になる頃にはその知能は父親を超えようとしていた。そんなある日、サムは家庭訪問に来たソーシャルワーカーによって養育能力なしと判断され、ルーシーを奪われてしまう。彼は法廷で闘う決意を固め、エリート弁護士のリタに依頼するが…。</p>	<p>かけがえのない娘ルーシーを純粋に愛し、優しく見守る知的障害者サム。この難役を個性派俳優ショーン・ペンが見事に演じ、その年のアカデミー主演男優賞にノミネートされる。おしくも受賞は逃すが、彼はその後、03年に「ミスティック・リバー」、08年「ミルク」で2度、アカデミー男優賞を受賞。また、世界三大映画祭の主演男優賞も全て受賞するなど国際的に評価の高い俳優に成長する。一方、父親の障害を理解し、全面的に受け入れる娘役を演じたダコタ・ファンニングの演技も各方面で絶賛され、数々の賞に輝いた。</p>

コリン・ファースが英国映画「アナザーカントリー」で、繊細な理想主義者トミーを演じたのは23歳。不肖横谷はこのトミーにひとめぼれしたのです。誠実で真面目、しかし、どちらかと言えば地味でやや不器用な彼が、英米で主演男優賞を受賞する俳優に成長するとは！本当に嬉しい！彼の同世代には天才ダニエル・ディ・ルイス、人気スター、ヒュー・グラント、異才のルパート・エベレットがいて、それぞれに魅力的です。でも、やはり私にはコリンが一番！「高慢と偏見」のマーク・ダーシー役は最高です。是非ご覧ください。